

今週のメニュー

[トピックス](#)

DIY、乗用車やボートに塩ビラッピング

[随想](#)

ルワンダ旅行記(3) - レジ袋 -

(社)日本化学工業協会 若林 康夫

[編集後記](#)

トピックス

DIY、乗用車やボートに塩ビラッピング

バスや電車に描かれた広告や各種イベント案内を目にすることがありますが、ご存知の通りこのほとんどがペイントではなく、フィルムに印刷されたものが貼られているのです。

このメルマガで時々紹介する欧州の“PVC Today” Summer号に、自動車やボート、ヨットに貼る塩ビフィルムの話が載っていました。その用途は、商業用ではなく、個人所有の乗用車やボートなどをイメージしています。自分で、好きな色に替えたり、あるいは斬新なデザインに替えて楽しむことができるというのです。前述の広告用として車に貼る塩ビフィルムは、自動車市場ではよく知られていますが、ボートに貼るといのが新鮮な話題ではないでしょうか？適度に伸びのある塩ビフィルムは、特にボート底面の細かなヒビやキズにうまくフィットするばかりか、耐紫外線性や耐塩水性のあるフィルムはボートをダメージから救ってくれるということです。さらには、ボートのデッキや操舵室など船内にも貼ることもでき、段差のついたコーナー部分もきれいに仕上がるということです。

デザインや色を変えるとすると普通は塗装を思い起こしますが、塗装よりも気軽に作業ができ、安価で、溶剤を使う必要がなく、環境面でもメリットが多そうです。また、ボートやヨットといえ、持ち主が変わることがよくあることから、色替え、模様替えにはうってつけではないでしょうか？また、そんな模様替えの時のフィルム剥離作業も、剥がし残りがなく簡単に剥がせるため、ボートオーナーには好まれそうです。

そんな折、展示会「サイン&ディスプレイショー」で、自動車用のラッピングフィルムの展示ブースを見つけました。ひとつは、ちょっと人目を惹く模様のバイクの展示でした。バイクは車と違い、平面部分が少なく小さな曲面のかたまりで、いかにもフィルムを貼るのが難しそうです。それを容易にしているのが、塩ビフィルムの伸びと裏側に工夫が施されたミゾのある構造でした。貼る途中で気泡が残っても、簡単に抜けやすい構造となっているのです。仕上がりの見た目も、塗装と見分けが付きません。

もうひとつは、人だかりとなっていた展示ブースで、乗用車に塩ビフィルムを貼る実演を見学することができました。ちょうど作業は、乗用車のフロント左側面の部分でしたが、ボンネットの周りやタイヤ周りをあっという間に作業をこなしていました。曲面に差し掛かると、どうしてもしわしわができますが、これをドライヤーを使いながらうまく伸ばし、きれいな仕上がりにしていくのです。また、途中気泡が残ってしまった場合でも、これま

た不思議なことに、指で押さえることにより簡単に気泡が消えてしまうのです。これも、先ほどのメーカーとは違った構造のミゾをフィルムの裏側に付けることにより可能にした技でした。最後の仕上げはエンブレム周り。ここはコツがいるのですが、そこは手馴れたデモンストレーター、難なくクリアしていました。

話を伺うと欧米は、DIY の文化。結構自分で自動車やボートのメンテナンスをすることが多く、需要が伸びているとのことでした。見た目もきれいで、自分で模様替えができれば、日本でも、普及が大いに期待されるのではないのでしょうか。(了)

“ PVC Today ” Summer 号は、
http://www.pvcplus.de/fileadmin/user_upload/starkeseite/PVC-today_summer_2010-EF.pdf

随想

ルワンダ旅行記 (3) - レジ袋 -

(社) 日本化学工業協会 若林 康夫

ルワンダでショックだったのは日本で印刷をした書類を渡した際「この紙、汚い色をしている」と言われたことです。それも 1 人にではなく、書類を渡したり、見せたりするたびに言われました。特別な紙ではなく、日本ではごく普通に販売・使用されているコピー用紙です。

そう言われて見てみると、ルワンダで使われている用紙は漂泊率が非常に高く光り輝くように真っ白。このようなきれいな紙が普通のルワンダの人から見ると、リサイクルペーパーが含まれ、環境のため漂泊率も抑えた日本の紙はなんだか煤けた、汚い紙に見えるようです。

逆にルワンダで見かけないのはスーパーのレジ袋などの樹脂製の袋。スーパーや商店などで買い物をしてもらってくれるのは必ず紙袋。ゴミは一旦、各家庭のゴミ箱に入れ、そのゴミ箱を所定のゴミ置き場に持って行き、中身だけを捨てる。

物を縛るときに使う紐も荒縄が使い古したタイヤを細長く切ったゴム製のもので、樹脂製の紐は全くありません。

そう言われてみれば、街中に転がっている樹脂製のごみはペットボトルとポテトチップスの袋など少量の食品用包装袋だけ。

ルワンダでは環境保護の観点から、法律で樹脂製の袋や紐の使用を禁じているからです。

空路で入国する場合は、特に検査は受けませんが、バスなど陸路でルワンダに入国する際には国境の手荷物検査で所持している樹脂製の袋や紐は全て破棄させられ、ルワンダ国内への持ち込みはできないと聞いています。日本ではごく普通に使われているものが全くないというのも何とも不便なものです。

ルワンダの物価はアフリカ、特に東アフリカでは非常に高く、日本の東京までとはいかないまでもニューヨーク並みではないでしょうか。同じような食事をして「ルワンダ」ではお隣「ウガンダ」の数倍の値段になります。しかも、クレジットカードが使えず、現金払いが基本なので、多額の現金を持ち歩くことになります。

週末の夕方、スーパーに行ってみると、給料日の直後ということもあり多くの品物を購入する人でいっぱいでした。

レジではかなり分厚いお札を取り出し支払いをしていましたが、統計上の国民所得からは考えられない使い方でした（一人当たりの国民総所得：296ドル）。それだけ貧富の差が激しいというでしょう。



兄弟仲良く、はいポーズ。

首都のキガリではヨーロッパ製のスーツを着込み、新車の日本車に乗った人たちもいますが、道路を挟んだ向こう側では、穴のあいた服を着て、共同水汲み場から一生懸命に水を運んでいる子供がいます。

子どもの写真を撮ると、「僕のE メールアドレスはこれだから、後で送ってね」という子どももいれば、はじめて写真を撮ってもらったと、デジタルカメラのディスプレイに写っている自分の姿を大喜びというか、興味津々で見詰める子供もいます。

道路を1本渡るだけで、裕福と貧困が分かれています。（つづく）

前回のルワンダ旅行記（2）- ルワンダ航空 - は、下記からご覧頂けます。

http://www.vec.gr.jp/mag/286/mag_286.pdf

編集後記

NHK 大河ドラマ「竜馬伝」もいよいよ最終章に突入です。福山雅治演じる坂本竜馬に魅せられて、毎回楽しみにしています。先日、新聞記事で「薩長同盟裏書」の展示案内を見つけて、皇居にある宮内庁三の丸尚蔵館特別展「皇室の文庫」に家内と一緒にってきました。竜馬が薩長同盟六箇条を保証するために書いた裏書で、朱色の筆先が成し遂げた思いの強さを示しています。夢を語り、ぶれない姿勢が周りの人々を勇気づけ、維新を走り抜けた痕跡を見る思いでした。10月中旬まで開催されていますので、一見の価値あり、お勧めです。（円行）



関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp>

E-MAIL info@vec.gr.jp